

輸出事業計画

※申請者名：Apple Seed、品目：りんご

1. 輸出における現状と課題

【現状】

Apple Seedは、りんごの産地である群馬県沼田市でりんご農家を営む若手7名で構成されている。これまでシンガポールやタイへの輸出に取組んできた。また、輸出業者を通じた情報収集や現地P R販売等により、ニーズ等を把握し、対応している。

- ・海外では、赤色の濃いもの、甘みの強いものが好まれる傾向にあることから、「陽光」「ぐんま名月」「スリムレッド」「おぜの紅」「ふじ」を輸出している。また、高所得層をターゲットにしているため、品質や食味に重点を置いた生産・選果を実施しているほか、まだ海外市場に流通していない9月の早生りんごの需要が見込めている。輸出向けりんごはスマートフレッシュを利用し、鮮度維持や食べごろの調整を行っている。

- ・国内向け生産・販売は、観光りんごとしての需要がまだまだ高く、市場出荷はほとんどしていない。今後は国内人口やお歳暮需要の減少により、国内需要は減少の一途をたどると予測され、そのような観点からも海外輸出への転換が必要と感じている。

【課題】

●生産

- ・現状、国内販売が順調であるため、輸出向け生産量が少ない。
- ・離農が増えており、生産農家数が減っている状況から、新たな構成員が確保しにくい。
- ・明確なブランド化ができていない。
- ・タイでは農業規制が強化されていることから、残留農薬基準等に合わせた生産が必要である。
- ・タイ向け選果・こん包施設について、現在は県認証による衛生証明を受けているが、今後は国際的な基準を満たすGAP認証を取得し、海外における信用性向上に努める必要がある。

●流通・販売

- ・現在のターゲットは高所得層であるため、空輸による輸出でも対応できているが、今後、ターゲット層を拡大していくには船便輸送も検討し、輸送経費低減を図る必要がある。
- ・船便輸送実現のためには、輸送中の鮮度維持が課題である。
- ・B品等の活用のため、ジュース加工・販売も行っているが、現在は1L瓶のため、小売り販売では不利な状況となっている。
- ・シンガポールでは、現状ECサイトでの販売のみであるが、現地レストランとの契約など少量でも長く続く輸出につなげたい。
- ・タイでは、現地スーパーで販売しているが、スポットであり、年間の見通しは立っていない。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産】

- ・全体の出荷量を増やしつつ、品種構成などを変えながら輸出割合を増やす。
- ・輸出品種の中心を「おぜの紅」（約2割）、「ぐんま名月」（約5割）として、改植・新植し、生産量を増やす。
- ・約1ヘクタールを目標に新しい化栽培を導入し、輸出向け生産方法を行うほ場を確保する。
- ・新規就農者確保のため、遊休農地を共有ほ場として整備し、新規就農者の受け入れ体制を構築するとともに、メンバー間で技術的補完支援等を行う。
- ・サイズ・色付き・形などの基準作りについて、生産者、県農業事務所普及指導課、市、JA等を含めて検討し、ブランド化に向けた取組みを行う。
- ・タイの農薬基準に対応するため、適宜使用農薬や散布時期の見直しや残留農薬検査を実施し、安全性の確認に努めていく。

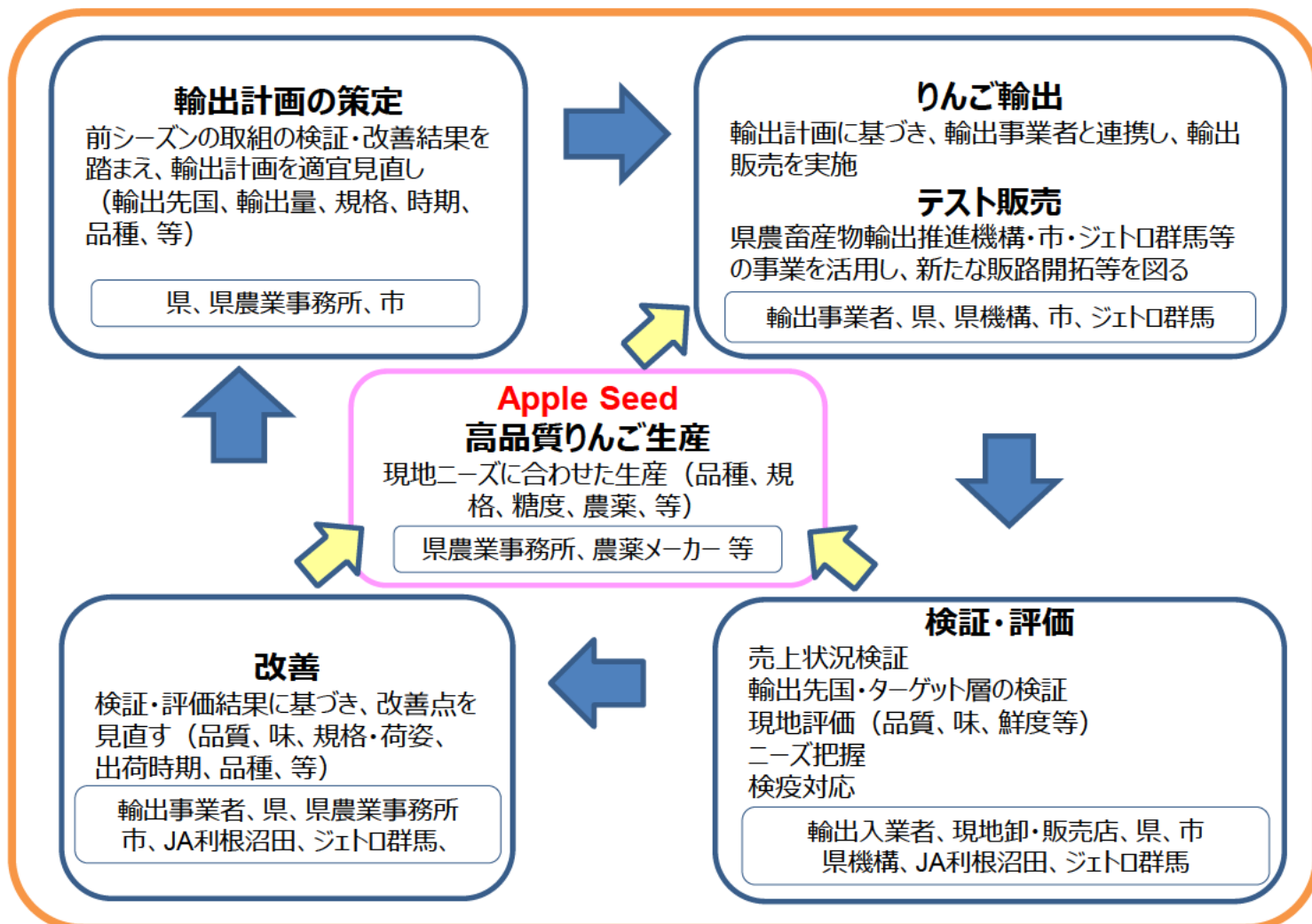
【流通・販売】

- ・船便輸出に対応するため、以下の取組を行う。
- ①本団体では、スマートフレッシュ施設をもっていないため、常設施設を新設し、最適なタイミングでスマートフレッシュ加工を行えるようにする。
- ②電圧冷蔵保存等の新たな鮮度維持技術、輸送技術について研究を行う
- ・ジュースについては、新たな加工委託施設を開拓し、300mlや750mlなどの小瓶に対応する。
- ・機構、JETRO、コンサルティングなどを活用し、海外バイヤー招へいや現地P R販売に参加し、現地のトレンドやニーズなどを調査し、より購買意欲につながる販売形態を検討したり、新たな販路開拓を図る。
- ・現地での広告宣伝方法を研究し、SNSなどを活用したより効率的な情報発信を行う
- ・タイ向けは、高所得層向け、旧正月用のギフトに対応するパッケージを検討する。

輸出事業計画

※申請者名：Apple Seed、品目：りんご

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

りんご輸出	現状（令和2年度）	目標（令和7年度）
輸出額	331千円	2,040千円
輸出量	0.6トン	3トン
輸出に取り組む生産者	1名	7名
輸出先国	シンガポール、タイ	シンガポール、タイ、香港

